

津波対策完了について神戸市からのお知らせ

神戸市の高潮・津波対策の取り組みについて説明いたします。

神戸市の高潮対策は、2015年度に完成しています。また、津波対策は、2011年の東日本大震災後、1000年に1度の津波に対する『減災』への考え方を導入して、高潮対策の施設を補強・改修して2022年度に完成しました。

区別に作成したパンフレット（人が住むところは浸水しないと想定されます）の津波浸水想定図（対策前と対策後）を比較していただくと、神戸市内の居住地域は1000年に1度の津波（南海トラフ巨大地震により発生すると想定される津波）でも浸水しないと想定されます。

● 神戸市の津波対策〔1,000年に1度発生する可能性のある津波に対する備え〕

⇒2015年度より津波対策に着手し、2022年度に完成しています。

南海トラフ巨大地震津波浸水想定図（最大クラスの津波による浸水想定図）は、避難を中心とした津波防災対策を進めるため、津波防災地域づくりに関する法律に基づき兵庫県が作成・公表（2014年2月）したものです。この浸水想定図では、神戸市域でも浸水する（1m未満の水深）ことが予測されました。

このため、神戸市ではより安全・安心を目指し、防潮堤等の嵩上げや洗堀防止、目地補強の対策を2015年度から着手し、2022年度に完成しました。対策により神戸市内の居住地域は浸水しないと想定されます。対策後の津波浸水想定図（神戸市作成）を区別に切り取ったものが、区別チラシに示す対策後の図面です。

また、さらなる安全を目指し、鉄扉を遠隔操作で閉鎖する対策を2018年度より開始しています。

津波浸水想定図作成時（兵庫県）条件に対する神戸市の追加対策

条件項目	兵庫県	神戸市の対策
防潮堤等の沈下	沈下考慮	対策①（POINT01）：防潮堤等の嵩上げ たとえ沈下しても十分な高さが確保できるように防潮堤や鉄扉等の嵩上げを実施
津波による洗堀	洗堀などで破堤 （防潮堤破壊）	対策②（POINT02）：洗堀防止 津波により洗堀され破堤しないように周辺を補強
目地の開き	目地に隙間ができ浸水	対策③（POINT03）：目地補強 防潮堤がずれ目地に隙間ができないように擁壁の継ぎ目を分厚く補強
鉄扉の閉鎖	一部閉鎖	新技術（遠隔操作）を導入 何時でも、どこからでも鉄扉閉鎖できる

● 神戸市の高潮対策〔100年に一度発生する可能性のある高潮に対する備え〕

⇒1965年度より高潮対策に着手し、2015年度に完成しています。

具体的には、神戸港の満潮時に伊勢湾台風（1959年（昭和34年）台風15号）級の台風が神戸港に高潮をもたらす典型的なルート（室戸台風、1934年（昭和9年）のルート）で接近した場合に発生する高潮を想定して防潮堤等を整備しています。高潮による浸水はしないと想定されます。

●関係省庁ホームページ

- ・国土交通省 津波防災地域づくりに関する法律について

<https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/point/tsunamibousai.html>



- ・国土交通省 津波浸水想定の設定の手引き

<https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/point/content/001621078.pdf>



人が住むところは 浸水しないと想定されます

津波対策事業 概要

対策の考え方

防潮堤の構造を「粘り強いもの」にして、津波による被害を大幅に軽減。

対策延長

約14km
(防潮堤の総延長約60km)

事業完了

2022年度

想定津波高（東灘区）

標高**3.3m**

津波浸水想定図



「水害リスクが低い」と評価されました

損害保険各社で作る「損害保険料算出機構」は、洪水や高潮なども含めた水害を補償する水災保険の保険料率を市町村別にリスクに応じて5段階評価しています。（2023年6月～）神戸市東灘区は、5段階評価の内、2番目にリスクが低い「2等地」となっています。

人が住むところは 浸水しないと想定されます

津波対策事業 概要

対策の考え方

防潮堤の構造を「粘り強いもの」にして、津波による被害を大幅に軽減。

対策延長

約14km
(防潮堤の総延長約60km)

事業完了

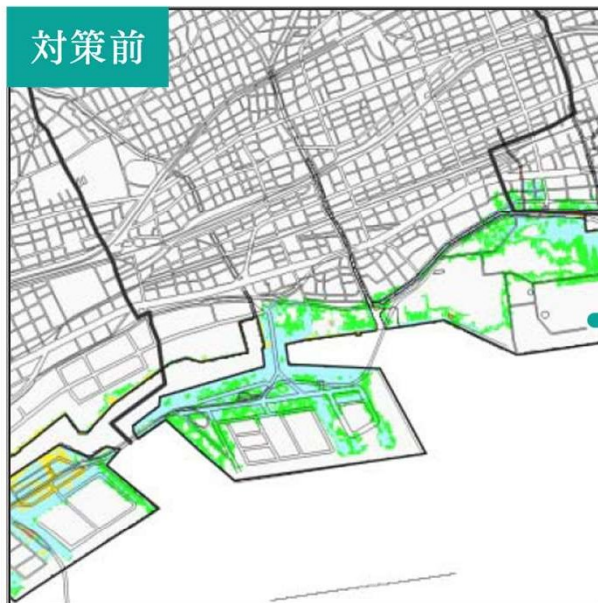
2022年度

想定津波高(灘区)

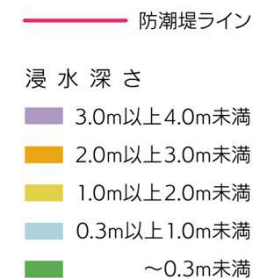
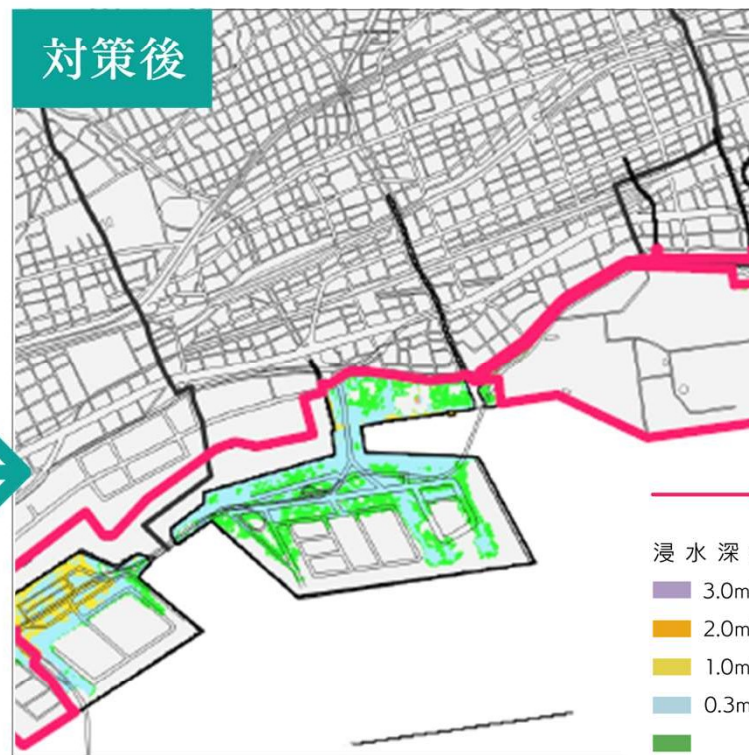
標高**3.2m**

津波浸水想定図

対策前



対策後



「水害リスクが低い」と評価されました

損害保険各社で作る「損害保険料算出機構」は、洪水や高潮なども含めた水害を補償する水災保険の保険料率を市町村別にリスクに応じて5段階評価しています。(2023年6月～) 神戸市灘区は、5段階評価の内、2番目にリスクが低い「2等地」となっています。

人が住むところは 浸水しないと想定されます

津波対策事業 概要

対策の考え方

防潮堤の構造を「粘り強いもの」にして、津波による被害を大幅に軽減。

対策延長

約14km
(防潮堤の総延長約60km)

事業完了

2022年度

想定津波高（中央区）

標高**3.9m**

津波浸水想定図



「水害リスクが低い」と評価されました

損害保険各社で作る「損害保険料算出機構」は、洪水や高潮なども含めた水害を補償する水災保険の保険料率を市町村別にリスクに応じて5段階評価しています。（2023年6月～）神戸市中央区は、5段階評価の内、2番目にリスクが低い「2等地」となっています。

人が住むところは 浸水しないと想定されます

津波対策事業 概要

対策の考え方

防潮堤の構造を「粘り強いもの」にして、津波による被害を大幅に軽減。

対策延長

約14km
(防潮堤の総延長約60km)

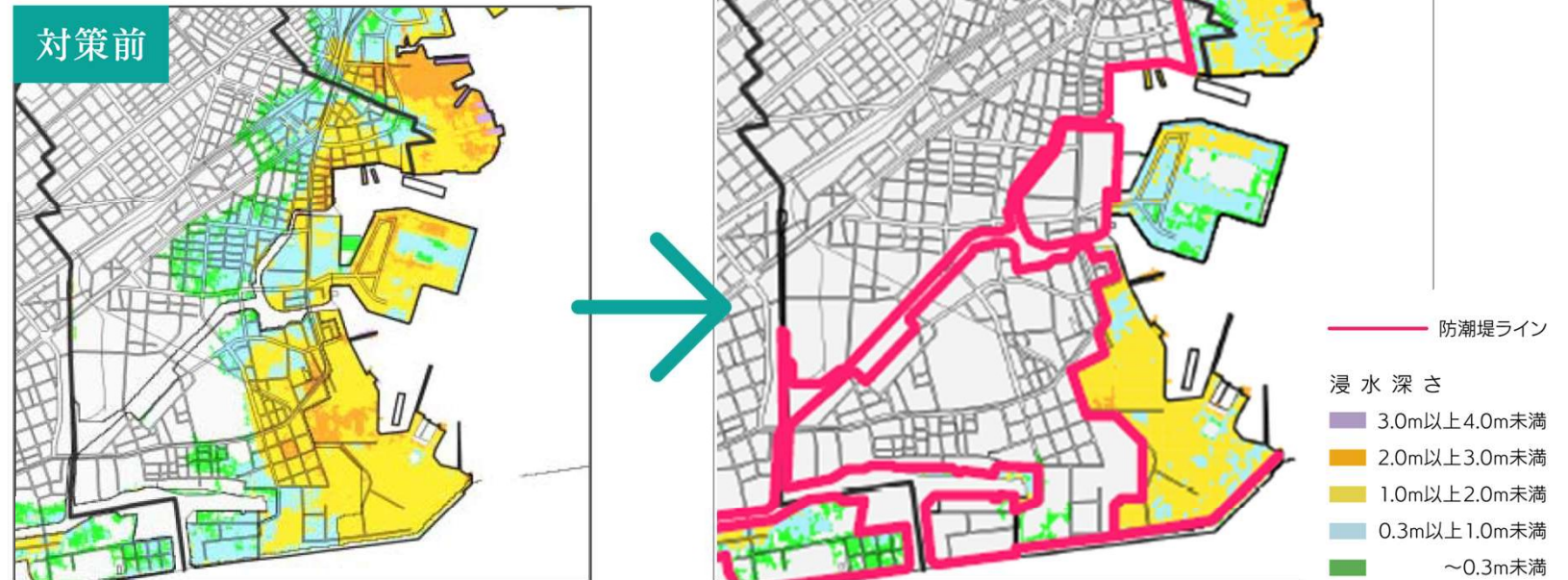
事業完了

2022年度

想定津波高（兵庫区）

標高3.5m

津波浸水想定図



「水害リスクが低い」と評価されました

損害保険各社で作る「損害保険料算出機構」は、洪水や高潮なども含めた水害を補償する水災保険の保険料率を市町村別にリスクに応じて5段階評価しています。（2023年6月～）神戸市兵庫区は、5段階評価の内、2番目にリスクが低い「2等地」となっています。

人が住むところは 浸水しないと想定されます

津波対策事業 概要

対策の考え方

防潮堤の構造を「粘り強いもの」にして、津波による被害を大幅に軽減。

対策延長

約14km
(防潮堤の総延長約60km)

事業完了

2022年度

想定津波高(長田区)

標高**2.7m**

津波浸水想定図

対策前



対策後



「水害リスクが標準的」と評価されました

損害保険各社で作る「損害保険料算出機構」は、洪水や高潮なども含めた水害を補償する水災保険の保険料率を市町村別にリスクに応じて5段階評価しています。(2023年6月~)神戸市長田区は、5段階評価の内、標準的な「3等地」となっています。

人が住むところは 浸水しないと想定されます

津波対策事業 概要

対策の考え方

防潮堤の構造を「粘り強いもの」にして、津波による被害を大幅に軽減。

対策延長

約14km
(防潮堤の総延長約60km)

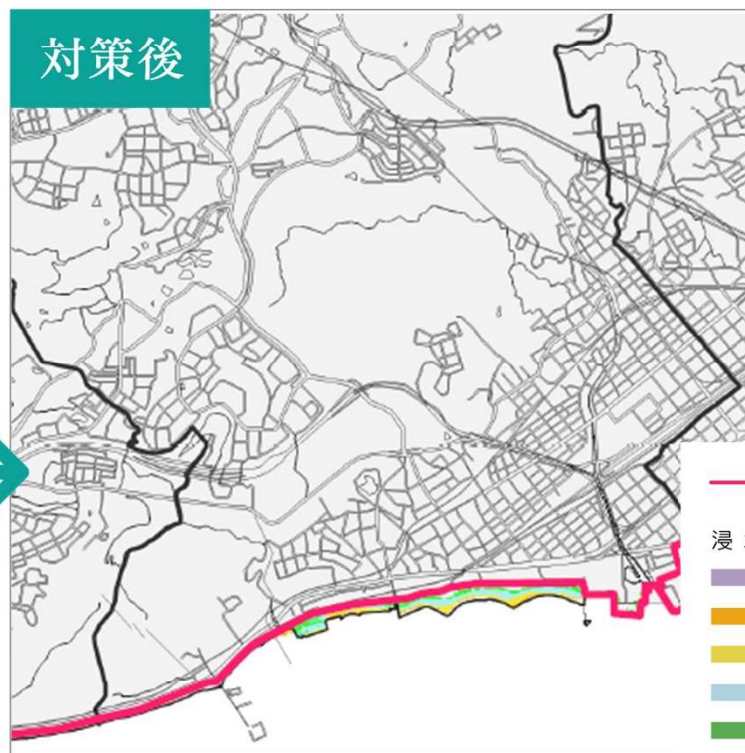
事業完了

2022年度

想定津波高 (須磨区)

標高**3.0m**

津波浸水想定図



「水害リスクが低い」と評価されました

損害保険各社で作る「損害保険料算出機構」は、洪水や高潮なども含めた水害を補償する水災保険の保険料率を市町村別にリスクに応じて5段階評価しています。(2023年6月~) 神戸市須磨区は、5段階評価の内、2番目にリスクが低い「2等地」となっています。

人が住むところは 浸水しないと想定されます

津波対策事業 概要

対策の考え方

防潮堤の構造を「粘り強いもの」にして、津波による被害を大幅に軽減。

対策延長

約14km
(防潮堤の総延長約60km)

事業完了

2022年度

想定津波高(垂水区)

標高2.6m

津波浸水想定図



「水害リスクが低い」と評価されました

損害保険各社で作る「損害保険料算出機構」は、洪水や高潮なども含めた水害を補償する水災保険の保険料率を市町村別にリスクに応じて5段階評価しています。(2023年6月～) 神戸市垂水区は、5段階評価の内、2番目にリスクが低い「2等地」となっています。

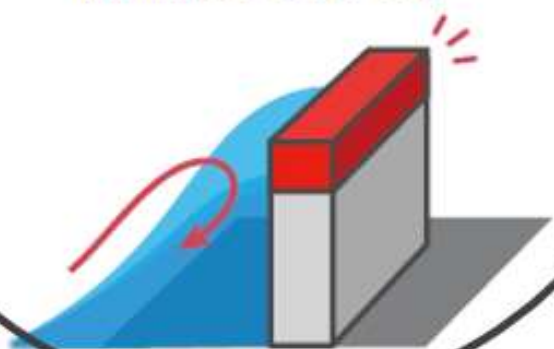
安心・安全な津波対策（1 / 4）

・粘り強い構造の防潮堤

POINT

01

海水が堤防を
越えないように、
防潮堤を高く！



安心・安全な津波対策（2 / 4）

・粘り強い構造の防潮堤



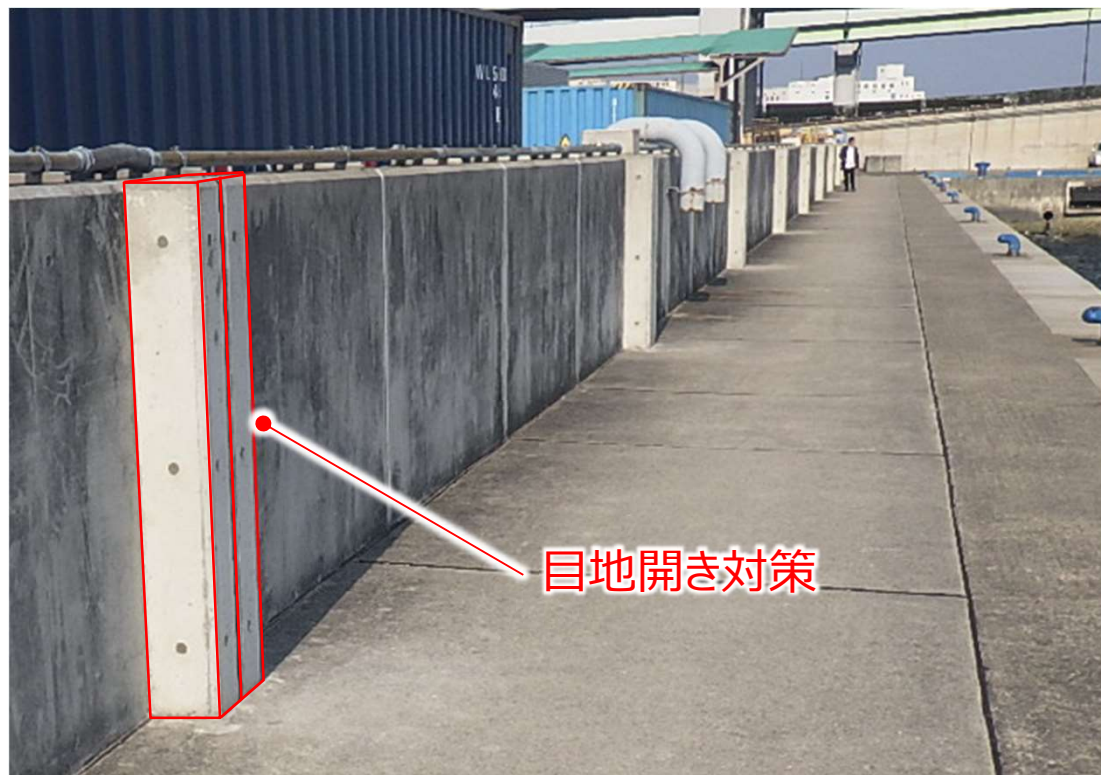
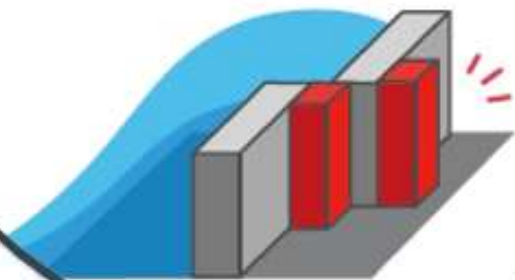
安心・安全な津波対策（3 / 4）

・粘り強い構造の防潮堤

POINT

03

継ぎ目から海水が
流れ込まないように、
すき間が空きにくいよう強化!



安心・安全な津波対策（４／４）

・タブレットによる防潮鉄扉の遠隔操作



防潮鉄扉を操作する職員が
どこにいてもタブレットで
開閉できます。